

「秋田内陸縦貫鉄道存続についての1万人署名運動」

趣意書

＜寺田知事の発言から＞

秋田県の寺田知事が2006年12月18日の県議会において、内陸線の安全対策のための大規模改修工事に9億円かかるという県の報告を受けて、「今後の県財政でどこまで耐えられるかという状況もある。毎年3億円の赤字が出るような状況で、果たして公共交通機関として維持できるのか、率直に考えざるを得ないところにきている」、「経営数値は正直。地域住民や会社、県や沿線自治体が将来の見通しを含め、冷静に検討すべきだ」(「存廃については) 県民ニーズをとらえ、総合的に判断せざるを得ない」などと発言しました。

ここから急速に廃線に向けての議論が活発化してくると予想されます。

＜なぜ存続か＞

では、私たち鷹巣阿仁青年会議所は「存続」を求めるのでしょうか。

私たちの暮らす鷹巣阿仁地域は東京や大阪など大都市には程遠いいわゆる『田舎』町です。しかしながら、内陸線を存続させることで、その『田舎』町の紅葉や樹氷などの自然美を求めて県内外からたくさんの方が訪れてくれると思います。現に内陸線を利用した、旅行会社によるツアー客は、着実に増えております。まさしく、鷹巣阿仁地域の観光の軸となるのです。

また、秋田内陸縦貫鉄道の沿線に暮らしている人々はどうでしょう。内陸線を生活の足とし、水や電気と同じ、いわゆるその人々のライフラインなのです。その生活の糧とも言うべきライフラインを数字上だけの「赤字路線」と位置づけ、廃線にしましてもよいのでしょうか。無くするのは簡単ですが、一度止めてしまったものを復活させることは新しく開通させるより、非常に困難なことです。

このように大自然と人々の知恵ややさしさに触れることのできる秋田内陸縦貫鉄道は、地域の方々あるいはそこを訪れる方々に必要なインフラであるのです。

私たちは「赤字路線を廃止」と囁かれている秋田内陸縦貫鉄道の存続運動を展開します。

＜内陸線を守ろう＞

大正11年旧国鉄が鷹巣～角館間 予定線に認定し、平成元年鷹巣～角館間 全線開業するまで、内陸線は全線 94.2kmを「夢」をつないで、走ってきました。どんな雨の日も、どんな雪の日も…。この地域を訪れる人や、ここで生活している人のために。私たちは住民として、先人が残してくれたこの「財産」を残さなければなりません。

私たちは自信と誇りを持って、「内陸線」を守ります。

ご署名にご協力をお願いいたします。

鷹巣阿仁青年会議所

理事長 大森光信

連絡先 北秋田市松葉町4-7 2階

Tel 0186-62-0695